

ピースボートおりづるプロジェクト

おりづる全国証言会 # 準備会

開催日：2018年3月14日

開催場所：都内私立高校

対象：高校2年生23名

証言者：木村徳子さん

証言会の内容

- ワークショップ「核兵器と聞いて連想するものは？」「核兵器は国を守るために必要？」「核兵器禁止条約には賛成？」（60分）
- 被爆証言（50分）
- ディスカッション「核兵器をなくすために自分たちにできること」（30分）

3月14日にピースボートおりづるプロジェクトのおりづる全国証言会の準備会として、都内にあるとある私立高校へ証言会を実施しに行きました。今回のクラスでは23名の生徒の前で行いました。

証言会の導入として、生徒たちが今核兵器に関してどのようなイメージや認識をしているのかを知るためのワークショップを行いました。核兵器と言われると「黒い雨」や「放射能」、「核保有国」などの言葉を連想する生徒が多かったです。

核兵器は国を守るために必要なのかという問い（核保有国の立場として考えた時に）に対しては、YESと答えた生徒が20、NOと答えた生徒が3、という結果になりました。理由を聞いてみると、「核兵器がないと自国が守れなくなる」、「核兵器があると自国の安全が保障される」、「他国が核兵器を破棄しない限りカバランスが崩れてしまうなど」がありました。またNOと答えた生徒も「長期的に見たときにリスクが大きい」、「キリがない」など、特別に強い反対理由に基づいているわけではありませんでした。生徒の間では核兵器肯定派が極めて多いということがわかりました。

核兵器禁止条約に賛成かどうかという質問もしてみました。核兵器は国を守るために必要であるという意見が多い一方で、核兵器にYESと答えた人は20、NOと答えたのは7という結果になりました。生徒たちの共通していたのは「条約は必要だとは思いますが、現実的に実効力を持たせるのは難しいのではないか」という見方でした。

被爆証言は、長崎被爆者の木村徳子さんをお願いしました。クラスの半分以上が被爆者の方の話を聞くのが初めてだという子でした。そのような状況だったので、木村さんは長崎にどのような経緯でどこに原爆が落とされたのか、そのとき木村さん自身はどこにいたのかなども含め、地図や写真を使いながら丁寧に話をしてくれました。その中のひとつがスカイツリーの写真。これを使って、スカイツリーと比べた時に、広島・長崎の原爆がそれぞれどの位置から投下されたのかというのを説明してくれました。高校生たちは、スカイツリーといったわかりやすい対象物があることでよりイメージがわいたようでした。

木村さん自身は10歳の時に3.6Kmの地点で被爆しました。木村さん一家は爆心地に近い場所へ引越をする予定でしたが、朝から空襲警報が鳴ったこともあり命を落とさずにすみました。奇跡的に今いることができる木村さんの話を生徒らは真剣に聞いていました。木村さん自身は直接の被害は体験していませんが、周りではどのような被害が起きていたのかをお話されていました。

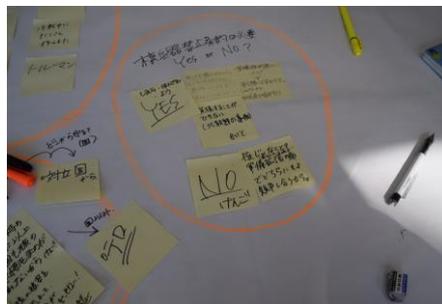
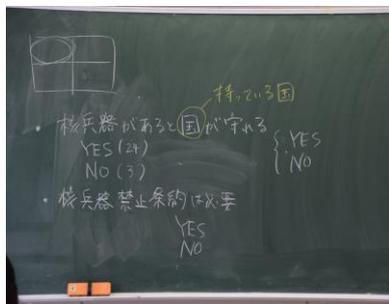
また原爆投下直後の話だけでなく、被爆後の差別の話もしてもらいました。木村さん自身被爆をし

たことを旦那さん以外の家族（旦那さんのお母さんをはじめとした親戚たち）に秘密にしていたということや、そもそも結婚をするにあたって差別を受ける人が多かったというような話をしてくれました。生徒の書いてくれた証言の感想を見てみると、このような、原爆被爆者として生きていく中で「その後」の話に衝撃を受けた子は多かったようです。木村さんは、1時間目のワークショップで生徒の間で核兵器に関して肯定的な意見が多かったことを踏まえて、「いろいろなご意見があると思いますが、核兵器が落とされたら相手だけではなく自分にも恐ろしいことが起きる。そのことをわかってほしい」と生徒たちに訴えました。生徒の中には話を聞きながら涙を流している子もいました。

話を聞き終わり生徒たちに感想を聞くと、「こんなにひどいことが当時起きていたなんて知らなかった。」「私たちは国レベルでの話をしていたけど、市民レベルで考えた時に核兵器はいけないものだと知りました。」「被爆証言を初めて聞いて、想像もつかなかった被害がそこにはありました。」「自分も何かできることを考えていかなくはいけないなと思いました。」など、木村さんの話によって核兵器の問題への視点が変わったことがうかがえました。

今回訪れたクラスでは、元々授業で模擬国連というもので核兵器禁止条約のことを考えたり、NPTに関する授業などで核兵器の話題を扱ってきたそうです。しかし、それらはすべて国レベルでの話し合いでした。国の代表として考えれば、国防のため、国益のために「核兵器は必要である」という考えになっていたようです。しかし、木村さんの話を聞くことで、生徒は市民レベルで核兵器を考えることができたようです。核兵器がどのように人を傷つけるのか、落とされた後被爆者はどのような影響に長い間苦しんできたのかなどの現実を知り、人道的な視点を持つことの大切さを知ったようです。

被爆者の話がこんなにも若い人たちの心にまっすぐに響いたことを嬉しく思いつつ、被爆証言を届け続ける意味があると改めて感じました。



担任の先生の感想

今回学校で証言会を行っていただき、核兵器のことを授業で学び知ったつもりになっていた生徒たちが、実際の被爆者の方を前にして圧倒的な体験を聞いて心を動かされた様子を見て、担任としてとても感動しました。生徒から「今の社会は利益ばかりを求めすぎている。もっと人間としての視点に立ち返らないといけない。」という発言がありましたが、学校もその例に漏れないかも知れません。学校という場だからこそ、公平な立場で物事を教え、論理的思考が出来る生徒を育成するべきだと思います。だけど、そこに人道的な視点はあるのか。私たち教師が改めて振り返らないといけないと感じました。そして、柔軟な心も持つ生徒たちに、教師としてどんな機会を提供してあげられるのか。教員としての責任を改めて感じる機会となりました。貴重な機会を提供していただき、どうもありがとうございました。